





トマト一筋45年。夫と共にトマト名人を目指して。

岡田トマト園

岡田（おかだ） 早苗（さなえ）

多くの方に喜んでもらえるよう考えながらトマト栽培をしている早苗さんは、農家だった夫との結婚を機に就農し、トマト一筋45年。一年を通して出荷できる体制が整っている岡田トマトは、市内の学校給食にも提供されている。

=DATA=
地　　域　下内川
栽培品種　トマト
販売場所　岡田トマト園
　　JAさいかつフレッシュファーム
　　イオンタウン吉川美南店

▼トマト一筋45年

農業をやる前、私は幼稚園に勤めていました。また、私の実家は農家ではなかったので、私自身農業が未経験でした。農業未経験の私が就農したきっかけは、夫との結婚です。夫は、高校卒業後住み込みで県外にトマト栽培の研修をしていました。夫がトマト栽培の研修を終え本格的にトマト栽培をはじめる頃に結婚し、就農しました。今は、トマト一筋45年になります。今まで夫と一緒にやってきたので苦労したことは特にありません。夫は「トマト名人になる」という目標があるので、その夢が実現できるよう手伝っていきたいですね。

▼チーム岡田トマト

トマトの最盛期は4～6月です。私は、トマトの実が4～5果になるように管理しています。自家受粉をしないので、トマトの花にホルモン剤をつけ受粉させています。気温が高くなる頃にはマルハナバチをハウスの中に入れて受粉させています。私たち以外、ここで作業する人たちは、1日3名ずつシルバー人材センターの方に来てもらって収穫を手伝ってもらっています。他に、パートが全員で6名。子育て中の方もいるので、来られる曜日に来てもらっています。2名は20年以上、他の方は去年、採用しました。出荷の手伝いやハウス内の管理をお願いしています。フレッシュファームができてから、年間を通してトマトを出荷してほしいという要望があり、ハウスを2棟増やしたり、パートを雇用したりして体制を整えてきました。パートさんは、直売所に買いに来てくれたお客さんに、にこやかに対応してくれています。お客さんを大事にしてくれているのが感じられてとても頼りになります。

▼メリハリが大事

農家というと決まった休みがなくずっと働いているイメージがあったのですが、私たちは、仕事の時間とプライベートの時間にメリハリをつけるようにしています。金曜日は基本的に定休日です。お休みのときは、旅行に行ったり、観劇に行ったり、歌舞伎を見に行ったりしています。時には、市内の女性の農家さん達と旅行に行ったりもしました。

▼トマトの出荷先

ここで育てたトマトは、フレッシュファームや、イオンタウン吉川美南店の他、市外の大型スーパー、そして岡田トマト園直売所で販売しています。みんなにおいしいと言っていただいて、遠くから買いに来てくださるとうれしいですね。お孫さんやお子さんが直売所にいらっしゃった時は、喜んでもらえるように好きなトマトを選んでもらっています。また、市内の学校給食用にトマトを提供しています。孫もトマトが大好きで学校の給食を楽しみにしてくれているんですよ。最近は、子ども食堂への提供ができていないので、たくさん栽培できれば、子ども食堂へ提供を再開したいと考えています。







右）岡田トマトはS-GAP実践農場として取り組んでいる。左上）作業所内には、トマト園を訪問した子どもたちのメッセージが飾られている。下）取材当日に働いていたチーム岡田トマトの皆さん